



「国際協力カレッジ 2020」 事業実施報告書

<目次>

- 1、本事業の目的・目標および実施概要(プログラム内容)
- 2、参加者アンケート結果
- 3、出展団体アンケート結果
- 4、アンケート結果の分析
- 5、今後に向けての課題・提案や運営上の工夫

1、本事業の目的・目標および実施概要(プログラム内容)

【本事業の目的および目標】 *業務仕様書より抜粋

「国際協力カレッジ」は、中部地域において国際的な課題に関心を持つ若年層を中心とする人々が国際協力の現場で働く人の声に触れ、考え、共に動き始める場として2006年度より実施しており、本年度で15回目を迎える。この間国際社会においては、2015年9月の国連サミットにおいて「我々の世界を変革する:持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択された。2030アジェンダでは「誰一人取り残さない」を理念として、一人ひとりに焦点を当て、開発途上国のみならずあらゆる国々で取り組むことが必要とされている。また民間企業や市民社会の役割が益々高まり、あらゆるステークホルダーが連携すること(グローバル・パートナーシップ)が求められている。

上記を踏まえ、「国際協力カレッジ2020」は国際協力に関心を有する学生や市民を主なターゲットとして、世界の現状や取り組み、SDGsの達成に向けて活動する団体(民間企業、NGO、自治体や市民団体など)の紹介などを通じ、国際協力の必要性や課題を理解し、参加者一人ひとりが具体的な行動に移すきっかけを提供することを目的として、以下のとおり実施した。今回は新型コロナウイルス感染拡大を予防すべく、初めて全面オンラインにて実施した。





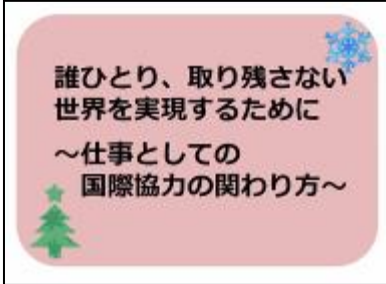


【本事業の実施概要(プログラム内容)】

- ・日時:2020年12月19日(土)13:00~17:30
- ・方法:オンライン
- ・主な対象者:国際協力分野におけるボランティア・インターン・職員
に関心がある、学生・若い世代
- ・参加者数:68名 /定員70名(申し込み者数:91名)
- ・主催:独立行政法人国際協力機構中部国際センター(JICA 中部)
事務局:特定非営利活動法人 名古屋 NGO センター





時間	内容
<p>受付・案内</p>	<p>オンラインイベントにありがちなスタート前の無声・静止画の時間を有効活用し、パワーポイントにて、当日のスケジュールや参加にあたってのお願いや案内を配信した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
<p>開会</p>	<p>あいさつ・オープニング</p>
<p>13:00～ 13:20 (20分)</p>	<p>全体司会 【ココアゴラ 名古屋 NGO センター理事 市野将行】 ～進行内容について～ 開会の挨拶 【JICA 中部 市民参加協力課 課長 酒本和彦氏】 主催者代表としての挨拶と共に、以下 2 点の概要説明を行った。 1、国際協力カレッジについて 2、SDGsについて アイスブレイク(チャットの練習) 1、今接続している場所を参加者がチャット書いた。 2、国際協力カレッジ参加動機をチャットに書いた。</p> 
<p>1 時間目</p>	<p>講義『「誰ひとり取り残さない」世界を実現するために～仕事としての“国際協力”の関わり方～』</p>
<p>13:20～ 14:50 (90分)</p>	<p>1 時間目 講義スタート 【進行:名古屋 NGO センター職員 田口裕晃】 進め方の説明 「ゲストトーク」「小部屋トーク」の 2 部構成の進め方を説明をした。 ゲスト紹介 _____</p>  <p>吉田 絵里菜さん JICA 中部 市民参加協力課 調査役 2009年にJICA入構後、管理部門、地域部(ミャンマー担当)、ヨルダン事務所(イラク向け事業等)を経て、2019年12月よりJICA中部市民参加協力課に配属。現在は、広報、なごや地球ひろば運営、開発教育、草の根技術協力事業、JICA 海外協力隊事業等を担当。</p> 



倉田 浩伸さん KURATA PEPPER Co., Ltd. 社長

1969年三重県津市出身。亜細亜大学経済学部卒業、1992年学生ボランティアとしてカンボジアに派遣。1994年カンボジア農業調査事務所を立ち上げる。1997年現地法人化。2005年カンボジアに胡椒専門店「KURATA PEPPER」開店 2013年日本支店設立。現在に至る。



熊澤 友紀子さん 認定NPO 法人アジア車いす交流センター(WAFCA)

教員を経て米国の大学院で国際教育を専攻。教育分野で国際開発の仕事をしたと考え、アジア車いす交流センターのタイ事務所に就職。タイの障害者支援の現場で実務経験を積みながら、インドネシア事業の立上げや中国事業の評価調査に携わる。昨年5月より現職。

◆ゲストトーク:現在のキャリアに至るまでの経緯やきっかけ、たいへんなこと、やりがいについて、それぞれのゲストが話した。

<当日発表資料(抜粋)>

●吉田さん



●倉田さん



●熊澤さん

My Life Journey		私が国際協力に関わったきっかけ
経歴	経験したこと・「刺激を受けたこと」	
1992	愛知県立高蔵寺高校	『国際経験って何だろう?』 アメリカから来た留学生『異国の文化は勇にしない』
1995	京都府立大学文学部英文学科	大学の国際関係のイベントに参加 『国際とは何?』と『国際とは何?』
1999	オーストラリアでインターン	メルボルンの私立女子高で日本語教師アシスタント
2000	愛知県の中学校(英語科)勤務	『夢を達成したことで、達成感を感じた』
2004	ボトナム・ホーチミンでボランティア	『経験は大切!』『経験は大切!』 『仕事としてやるなら!』でも『経験は大切!』
2004	フロンティアOCアメリカン大学大学院	『留学を思い出した!』 → 国際教育専攻 JICA国際事務局でインターン
2007	アジア車いす交流センター(タイ)勤務	国際協力NPOのタイ事務局に就職
2015年現在	アジア車いす交流センター(日本)勤務	同団体の日本事務局に異動



◆小部屋トーク:参加者が「ゲストトーク」に興味を持った先輩の話をじっくり聞くことができるよう、ゲストを1名選び(30分)それぞれのゲストのいる部屋に分かれた。参加者からの質問にゲストが答えた。

●以下、参加者からの質問内容と回答(一部抜粋)

●吉田絵里菜さん

Q.専門的な知識はどのように身につけましたか。これから身につけたい専門知識はありますか。

A.管理業務では簿記の勉強を通信でやっていた。専門分野の知識を持っている方から教えてもらいながらキャッチアップしていった。今後は金融系の勉強をしていきたいと思っている。

Q.国際協力分野で必要なソフトスキルとハードスキルを教えてください。

A.ソフトスキルはコミュニケーション能力が大切。ハードスキルは、語学力や、コロナ禍においては遠隔支援のニーズが高まり、ITスキルがあると自分の活動の幅も広がると感じた。

Q.JICAに入職するのはレベルが高いと聞きました。JICAに就職するのは難しいですか？

A.確かに総合職の採用倍率は高いと言われている。JICAには、総合職以外の働き方もたくさんあるので、詳しくは「PARTNER」を参照頂きたい。

●倉田浩伸さん

Q.カンボジアの方と文化や言語の壁を越えて信頼関係を築くためにはどのようなことが必要だと考えていますか。

A.組織の会計に透明にし、隠さないようにする。現地の人と同じ言語を喋れるようになることも大切。

Q.しびりが少ないところが民間企業の良いところだと思いますが、逆に民間企業だからこそ不便な部分などはありますか。

A.不便だと思ったことはない。民間企業が社会貢献、地域還元事業をもっとやっていくとよいと考えている。

Q.持続的な社会的価値のためには収益化は必須だと考えてますが、どのくらいで収益化できましたか。また胡椒以外でも何か考えられていることはありますか。

A.あまり儲けようと考えていないため、収益化をそこまで意識していない。胡椒以外ではカンボジアの綿を使った事業ができればよいと思っているが、自分ではやり切れないので、やりたい方をサポートできればと考えている。

●熊澤友紀子さん

Q.タイ語はどのように勉強しましたか。

A.学校や自分で勉強しました。ただ仕事では英語を使う機会が多かったです。

Q 国際教育はどんな学問ですか。



A. 紛争が終わった時に公教育が受けられない時に教育プログラムをどのように復興させていけばいいか等の実践的なものを学んだ。

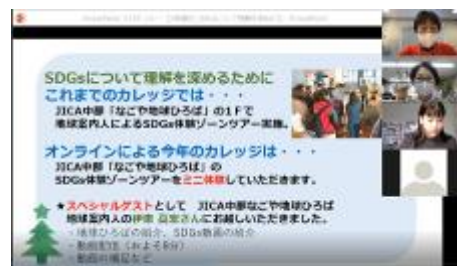
Q. NPO に就職するには具体的にどのようなアクション・対策をしていけばよいですか。

A. JANIC や名古屋 NGO センターのウェブサイトの求人情報を確認すること。また、インターンやボランティアで関わってみるとよい。

休憩 14:50~15:00 (10分)

2 時間目 SDGsについて理解を深めよう

SDGsの理解を深めるため、なごや地球ひろば地球案内人の伊東高広さんにお越しいただき、なごや地球ひろばの活用方法について説明していただいた。
動画「特別企画／第1~3弾！ #おうち時間なごや地球ひろば体験ゾーンツアー」を配信し、SDGsについて学びを深めた。



3 時間目 活動紹介 多様な国際協力の活動を知ろう！～コロナ禍におけるNGOの取り組み～

【司会進行】名古屋NGOセンター職員 村山佳江

- ・前半は参加者に出展団体について知ってもらうため1団体につき6分間で活動紹介をした。全7団体。
- ・後半はブレイクアウトルームを活用して、参加者に希望する団体の部屋に分かれてもらい、さらなる活動紹介と質疑応答を行った。

15:20~
16:50
(90分)

前半：1団体6分で活動紹介 (7団体ノストップ)

- ※画像オフ、マイクオフでご参加下さい。
- ※質問・感想はチャットのみ受け付けます。
- ※質問したい団体名が明確な場合は、団体名を明記してチャットで質問して下さい。

後半：小部屋トーク (ブレイクアウトルーム/30分程度)

7団体+相談コーナー=8部屋

1つ選んで参加して頂きます。

※相談コーナー：本日の出展団体以外のNGOを紹介してほしい。国際協力分野で就職・転職を希望したい。などの疑問にお答えします。(その他の質問もOKです)

参加者のみなさんへお願い

前半の発表が終わるまでに後半の小部屋トークに参加したい団体を1つ選んで名前の前にアルファベット(A~H)を記入してください。⇒D15山田花子

A アイキャン
B キャンヘルプタイランド
C ハンガーゼロ
D ホープ・インターナショナル開発機構
E チェルノブイリ救援・中部
F アジア保健研究所 (AHI)
G セイブ・イラクチルドレン・名古屋
H 相談コーナー (名古屋NGOセンター) ※希望なし: N

・名前が変更できない人は、チャットで希望する部屋を教えてください。
・団体の希望がない方はNを選んで下さい。人数の少ないところへ振り振りさせていただきます。

【教育・子ども】

1. アイキャン

アイキャン(ICAN)の理念

アイキャンな人(できることを実践する人)を増やす

世界中の子どもたちが 享受できる 平和な社会へ

どう行動していくのか？

人々の「ために」ではなく 人々と「ともに」行動していく

2. キャンヘルプタイランド

特定非営利活動法人
キャンヘルプタイランド
NPO CANHELP, Thailand
Canada America Nippon Health Education Love Purpose

活動地域

- タイ東北部イサーン地方約10県(1990年~)
奨学金 学校校舎・図書館建設 給食支援
- タイ北部(チェンマイ、メーホンソン)(2005年~)
山岳少数民族支援 学生寮「カサロンの家」
校舎・トイレ建設
- カンボジア西部サンパオルン郡(2016年~)
学校トイレ、井戸建設 奨学金

【地域開発】

3. ハンガーゼロ

4. ホープ・インターナショナル開発機構



私たちの世界では...
11人に1人が十分な食料が手に入らず飢餓に苦しんでいる

飢餓には2種類

からだの飢餓 ところの飢餓

Hunger Zero

簡易水道及び井戸の建設と保健衛生指導

エチオピア連邦民主共和国
Federal Democratic Republic of Ethiopia

カンボジア王国
Kingdom of Cambodia

重力式水供給システム (簡易水道)の建設

地形に合わせた 浅井戸または深井戸の建設

Ownership & Self-Reliance

【環境】

5.チェルノブイリ救援・中部

(特活)チェルノブイリ救援・中部の活動

【ウクライナ・チェルノブイリ原発事故 被災者の支援】1990年4月～

- 緊急支援・・・粉ミルク・医薬品・医療機器の提供
- 復興支援・・・移住村診療所整備等
- 自立支援・・・バイオエネルギー・農地再生「菜の花プロジェクト」
- 精神的支援・・・クリスマスカード・キャンペーン

【福島原発事故 被災者の支援】2011年4月～

- 南相馬市の放射能測定・・・汚染マップづくり
- 放射能測定センター・南相馬・・・食品・土壌等の測定
- 農地再生・・・「南相馬・菜の花プロジェクト」 「油菜ちゃんワークショップ」
- 精神的支援・・・クリスマスカード・キャンペーン

【人権・平和・医療】

6.アジア保健研修所

7.セイブ・イラクチルドレン・名古屋

誰もが尊重され、健康に生きられる社会に

【相互に作用するAHIの2大活動】

地域に根ざした活動

国際研修

広報紙「アジアの健康」等の作成や恒例イベント「オープンハウス」でアジア各国の情報を発信。また、「学校への出前授業」で日本の子どもたちへの教育活動も行う。

アジア各国のNGOから約20名を事務所(愛知県日進市)に招待。6週間の共同生活の中で保健衛生についてを学び、現地で活躍するリーダーに。

= 2020年2月まで =

* 活動内容 *

= コロナ禍の活動 =

医師の研修生入れ 国際理解の啓蒙活動 など

イラクの病院に防護具を贈るプロジェクト 現地からのSOSに応えて!

研修生入れ

タマイイ母子病院

寄付会実施

イベント参加

講演会の開催

モスル・アルカンサン病院

モスル・アム・ハムニヤ病院

【その他】

8.外務省 NGO 相談員コーナー(名古屋 NGO センター)



休憩 16:50～16:55 (5分)

4 時間目	全体会・ふりかえり／あいさつ、アンケート記入
16:55～	◆ふりかえり
17:20	参加者に加え、出展団体も交え 3-4 人程度でグループを作り、以下について話し合い、振り返りを行った。



<p>(25分)</p>	<p>① 今日学んだこと&印象に残っていること ② いまから行動しようと思っていること</p> <p>感想の全体共有の場面では、参加者から次のような感想があった。 「国際問題の解決に向けて様々な団体が動いていることが分かった。活動紹介では AHI に参加しましたが、日本にいながら国際協力に参加できることを知りました。今後イベントなどに参加していきたいと思います」 「『同情ではなく共感力』という言葉が印象に残った。高校で友達と 3 人で途上国に月経用ナプキンを送る活動をしているが、今後は現地とつながって活動を広げていきたいと思った」</p> 
<p>17:20～ 17:25 (5分)</p>	<p>◆閉会のあいさつ (特活)名古屋 NGO センター 事務局長 戸村 京子</p> <p>今年は初のオンライン開催となりました。オンラインでも率直に意見交換ができて、とても良かったと感じている。 活動紹介ではインターンやボランティアの方が活動紹介をしてくれて、参加者の方と近い立場の方が話されているのが印象に残っている。 今日の学びをそれぞれのキャリアや国際協力に関わる上でヒントにいただき、一歩踏み出していただくことを期待している。</p> 
<p>17:25～ 17:30 (5分)</p>	<p>◆アンケート記入&今後の案内</p>

(注意)本報告書の掲載写真に関しましては、特に参加者が特定できる写真の取り扱いにはご注意ください。

2、参加者のアンケート結果

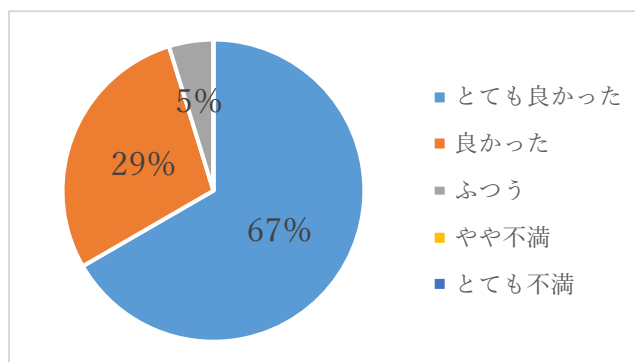
参加者・出展団体共にアンケートを配布し、回答を頂いたものを集計した結果である。

以下は、参加者アンケートの集計結果である。(アンケート有効回答数 43)

問1 1時間目「誰ひとり、取り残さない」世界を実現するために」はいかがでしたか？

◆参加者の声(抜粋)

- ・ JICA に入社される方々は専門職ばかりの方だと思っ
ていましたが、コーディネーターだと言われた事が印象
的でした。
- ・ 3人のお話を聞いて、国際協力といっても色々な関わり
方があると感じました。JICA の他にも NGO や NPO、民
間企業などさまざま、自分に合うのはどれだろうと考
えることができました。
- ・ 倉田さんがカンボジアに行かれたとき、もっと役に立て





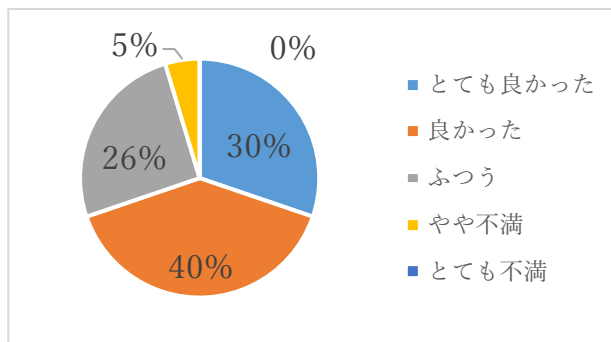
ると思っていたけれど何もできないと気づいたとおっしゃっていたのが印象的でした。あと、倉田さんの考え方がとても素敵だなと思いました。

- ・ 10 年続ければ誰でも専門家という言葉が印象に残りました。何事もコツコツ知識を蓄え、アウトプットすることが大切なのだと感じました。
- ・ 同情ではなく共感が大切という言葉が印象的でした。同情では、そのまま終わってしまうこと、共感を持って一緒になって考えることの大切さを改めて学びました。
- ・ 途上国には途上国の価値観があり、先進国は恵まれているように見えるが、実際そこで暮らす私たちは恵まれた社会でうまくやっていく方法を知っているにすぎないのではないかという話。
- ・ 熊澤さんの草の根の活動をしたい、現場で働きたいという強く深い思いと、それを支えた理事長から学んだ3つの大切な教え考え方、というものが印象に残り刺激になりました。

問2 2 時間目「SDGsについて理解を深めよう」はいかがでしたか？

◆参加者の声(抜粋)

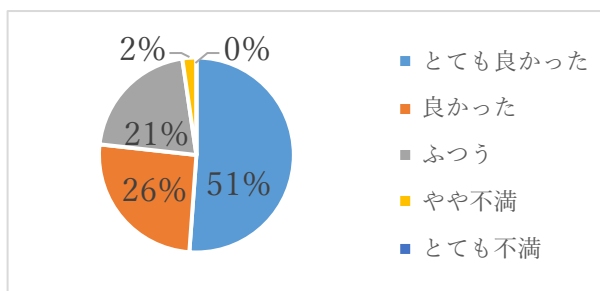
- ・ 大学で SDGs について学んでいるので、もともと知っていることなどもありましたが、もし自分が SDGs について何も知らないと言う程で考えると、とてもわかりやすい講義だったと感じました。
- ・ なごや地球ひろばの SDGsの展示が非常にわかりやすく、自分事として捉えやすいような内容だと感じました。ぜひ実際に行ってみたいです。
- ・ JICA のなごや地球ひろばで視覚的に、また体験しながら課題について学ぶことができるという点に興味を湧き、ぜひ行って学びたいと感じました。
- ・ JICA 中部の展示物をオンライン配信で紹介する取り組みがとてもおもしろかったです。
- ・ 1 秒間に 2 人ずつくらい人口が増えていることを初めて知りました。また、高校生でも参加できるボランティアがたくさんあるということだったので参加してみたいと思いました。
- ・ もうちょっと内容が知りたかった。
- ・ SDGsは私達ひとりひとりの意識の変化が必要になると実感しました。
- ・ JAXA が違法森林伐採の削減に貢献したと聞いて感動しました。このように有名な企業が国際問題に取り組む姿勢を見せることで、人々の意識向上にもつながるのではないかと思います。



問3 3 時間目「多様な国際協力の活動を知ろう！～コロナ禍における NGO の取り組み～」はいかがでしたか？

◆参加者の声(抜粋)

- ・ 同じ大学生がインターンシップ生してお話をしてくださいました。子ども・教育に関わりたいと考えている私にとって、様々な関わり方があることを知ることができ勉強になりました。
- ・ インターン生の方が多く登壇されていた印象で、NPO





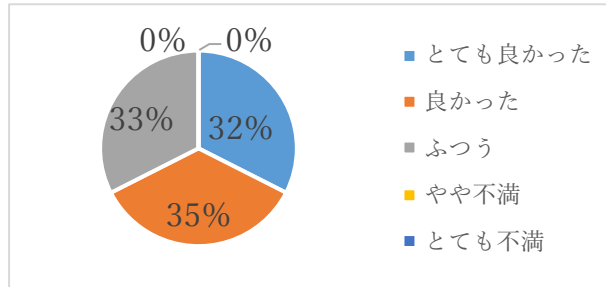
や NGO ではインターン生に裁量権があるのだと感じました。私もインターンに興味がある為、本日は詳しい内容が聞けて非常に参考になりました。

- ・ 国際協力をしている団体さんがこんなにもいることにまず驚かされ、インターン生の人たちのプレゼンがすごく上手で私もインターンに参加したいと思いました。
- ・ 様々な分野の NGO がこんなにあると思っていませんでした。ハンガーゼロさんに興味を持ったのでお話をまた聞きに行けたらいいなと思っています。
- ・ ただ支援するだけではなく、現地に住む方々が自分たちで状況を良くしていくための活動をしているという話が印象に残り、各団体の活動とSDGsとのつながりを感じました。
- ・ 実際に行われた取り組みがコロナ禍においても役立っていたところがすごいと思った。
- ・ コンゴでは国民の95%が1日2ドル以下で生活していること。
- ・ ホープ・インターナショナルが、貧困の根源の一つである水の問題について、各国の状況に即して最適な方法で水インフラを提供されているのが素晴らしいと思いました。
- ・ 以前起きた世界的な事故を継続的に多面的に支援されている話を聞いて、NGO の本質について改めて理解できたように思います。
- ・ 人権擁護や平和構築には様々なアプローチがあるが、今日初めて保健や衛生管理からの観点で学ぶことができよかったです。

問4 4時間目「全体会・ふりかえり」はいかがでしたか？

◆参加者の声(抜粋)

- ・ 年齢や興味のあることが幅広い初対面の相手と、国際問題に対して考えていることを話し合えたのが新鮮でした。
- ・ 同年代の方々が実際に活動している話などを聞くことができ、モチベーションになりました。
- ・ 私と同年代の学生の方たちの今後取り組みたいことを聞くことができ、非常に刺激になりました。
- ・ 団体の方々とグループワークでご一緒させていただいた時に、「フットワークの軽さが大事」と教わりました。国際協力を、何か難しいものと捉えるのではなくて、自分にできることを実践しようとする行動力を大切にしていきたいです。
- ・ 学生さんの多さに驚きました。インターンに参加していたり友達と活動に取り組んでいたというお話を聞いて、率直に驚きと尊敬です。私は社会人ですが、とても刺激を受けました。
- ・ とても若い人が多くて頼もしく思いました。男性が少ないのが残念でした。



その他 感想やお気づきの点、参加してみたい企画のアイデア等があればご記入ください。

- ・ 3時間目の団体のお話をもっと聞きたいなと思いました。
- ・ オンライン開催ということで、うちにいながらも国際協力について知ることができてよかった。同年代の人たちが深く物事をとらえていることや、普段はあまりお話できない年代の方々とも交流できたのがよかった。
- ・ 地方に住んでいるため、今回のオンラインは家から参加できて、大変助かりました。
- ・ オンラインではありますが、たくさんのお話を聞いて、貴重な時間でした。



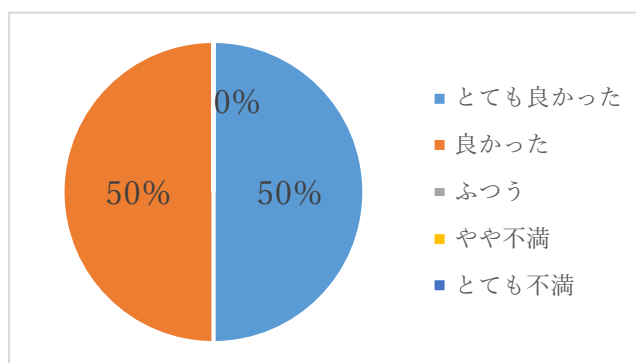
- ・ とても楽しかったです！
- ・ 3 回目のブレイクアウトでは、自己責任ですが…選択を間違えました。入室後でも、変更出来れば良かったと思いました。
- ・ 高校生で進路を悩んでいます。ただ漠然と世界貢献したいと思っていましたが、具体的に世界で活躍されているお話を聞けてとても良かったです。有難うございました。
- ・ 国際協力に大変興味があり、参加させていただきました。半日の中で発見が多く、とても充実した時間となりました。コロナ禍で思うように活動ができなかったり、現地に足を運べなくてもできる支援があり、自分にも何かできることがないか探すきっかけとなりました。同じ分野で活躍したいと思っている方、高め合える仲間がたくさんいることがとても嬉しかったです。このような素敵なイベントを開催していただきありがとうございました。

3、出展団体アンケート結果（意見は抜粋）

出展団体に向けたアンケートを実施し、回答頂いた。

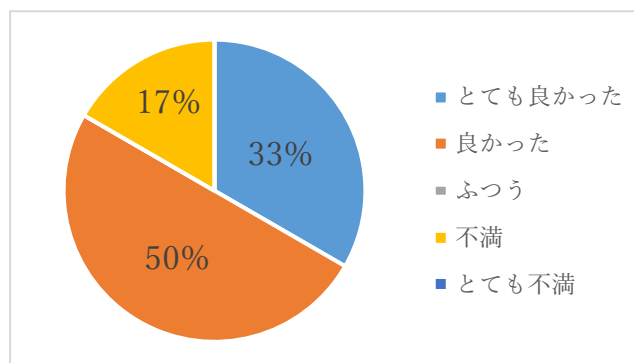
問1 3 時間目「活動紹介」の 6 分間のプレゼンはいかがでしたか？

- ・ リハーサルで、プレゼンを試みたり、その様子を録画してみたりして、もう少し各団体時間の管理の練習も出来るとよかったですと思いました。
- ・ 様々な分野を担当している団体を知ることができて非常に勉強になった。今後の自分たちの活動にもつながることも多かったので、積極的に結びつけができるようにしていきたい。
- ・ 他の団体の活動と目標について聞かせて頂いてとても良かったです。特に1つの団体の「ために」ではなく「ともに」おっしゃったのは強く残っています。
- ・ 各団体のスライド枚数を6枚に指定したのは良い方法だったと思います。作りこみ過ぎることがなく、出来栄の差が大きくでることもなく。
- ・ 自分のプレゼンがまずかったことを反省しています。他の皆さんは、若い人が中心で、上手だと思いました。ppt を共有しているので、団体の姿が見えづらいこともあると思いました。



問2 3 時間目「活動紹介」の小部屋トーク(ブレイクアウトルーム)の感想をお聞かせください。

- ・ 参加者のニーズも知りながら進められたので良かったですと思います。
- ・ 団体に興味を持ってくださることが知れて、団体側として嬉しかった。オンラインの開催だったが、画面上で参加者の方々と触れ合うことができたことがとても嬉しかった。
- ・ 動画の共有に手間取りましたが、無事にできました。





- ・ 参加者の皆さんに自己紹介を頼んだら、とても素直にしてくださいました。
- ・ オンラインは相手の様子がわかりにくいので、突っ込んだらおもしろいものがでてくるかどうかとかの判断がしにくいですね。
- ・ いつもながら、自団体の訪問者は少ないので、悲しいところです。テーマも重いので、楽しくはありませんね。若いスタッフだとまた違うかもしれません。他のイベント等と重なっていたので、残念でした。
- ・ 話しは良かったですが、時間はちょっと短かったです。
- ・ 例年は参加者が複数の団体を渡り歩くことができることを思うと、B.O.が少なくとも 2 回できると良かったと思います。

問 3 次回以降の「国際協力カレッジ」について、アイデアや改善点などがございましたら、お聞かせください。

- ・ 小部屋トークのような出展側と参加者側が交流できる機会は大切であると思ったので、今回はそのような場にさらに時間を費やしてもよいと考えた。また、今回参加者の方々が入室できるルームが一つであったというところで、時間内に自由に行き来できるようになれば、より多くの方が一つの団体に興味を持っていただけたと思います。
- ・ 若い人とそうでない人の幅が大きいですね。そうでない人を対象に考えたものも、あってもいいのかも。
- ・ ブレイクアウトルームの時、タイマーを見せてくれましてありがとうございます。実はあったかどうかわかりませんが、もし6分間の発表(プレゼン)の時も、発表する人または全員のためにタイマーを表示してくれれば、助かります。例えば、チェル救のまとめを聴きたかったですが、もし発表者さんはタイマーが見えたら、又は「残り1分」の警報があったら、まとめが出来たでしょう。とにかく、今日はおかげさまでとても良かったです。ありがとうございました。
- ・ オンライン開催も、慣れてくれば利点があると思います。遠隔地、海外からの参加がある点、話を聞く参加者にとっては直接聞いているような近さ、があるかと思えます。
- ・ 運営の皆様、慣れないオンライン開催で色々のご苦労があったと思いますが、入念にご準備されたので、とても円滑に進行しましたので大成功だったと思います。コロナ禍に負けず、開催いただきまして、ありがとうございました。

4、アンケート結果の分析

本事業の企画書において、達成目標およびその指標について、以下のように記載している。

(以下、企画書より抜粋)

到達目標 を測る指標	<p>参加者および出展団体に対し、実施するアンケート結果が、以下のAおよびBの3点を満たしていること。</p> <p>A、参加者が参加前と比較し、国際協力の必要性や課題に対する理解が深まったかどうか。</p> <p>1. 参加者によるアンケートのうち、1～2時間目(講義)について、「とても良かった」「良かった」と回答した人が、回答者数全体の80%以上であること。</p> <p>B、参加者一人ひとりが、イベント後、具体的な行動に移すきっかけとなり得たかどうか。</p> <p>2. 参加者によるアンケートのうち、「実際に活動に関わりたい、あるいはイベント等に参加したいと思う団体が見つかりましたか？」の質問に対し、「見つかった」と回答した参加者が、回答者数全体の50%以上であること。</p> <p>3. 参加団体のうち「活動に参加を希望する人がいた」「イベント等に参加をしてくれそうな人がいた」の合計数が、回答者数全体の50%以上であること。</p>
-----------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

●到達目標の指標および参加者・出展団体アンケート結果について

- ・ 参加者アンケートでは、1時間目の講義について「とても良かった」「良かった」と回答した参加者は合計95%で高い満足度を得ており、A-1の指標については十分達成し、参加者の「国際協力の必要性や課題に対する理解が非常に深まった」と言える。



- ・ 参加者アンケートでは、「なごや地球ひろばに行き視覚的にももっと理解を深めていきたい」「私もインターンに参加したい」「興味を持った団体がある」などといった感想が見受けられ、B の指標については概ね達成し、具体的な行動に移すための情報を提供できたといえる。
- ・ オンライン企画となったことからプログラムの内容にそぐわないため、今年はアンケートの質問に B-2.3 の指標についてわかる項目の記載を見合わせた。
- ・ 出展団体のアンケートにおいては、活動紹介の 6 分間のプレゼンについて「とても良かった」、「良かった」と回答した団体は 100%、ブレイクアウトルームについては 88%と高い満足度を得ることができた。
- ・ 過去に参加者としてカレッジに参加し、今回は出展団体としてプレゼンをするという、まさに本事業の成果ともいえる人が見受けられ、本事業の即効性の高さと「市民」と「国際協力活動」を結ぶ「懸け橋」としての存在価値と認知度の高まりを、事業の前後を通じて感じることができる。
- ・ オンラインの良さを最大限に活かしながら、コロナ禍において、今後も本事業が中部地域における国際協力の裾野を広げる JICA 中部の恒例事業として継続されることが、中部地域の市民や国際協力団体より望まれている。

番外編～ 参考までに、アンケートでは聞いていない項目（申し込みデータ）を 3 点追記し、分析しました。
（但し、事前申込者 91 名のうち有効回答数 *キャンセル者含む）

1. 住んでいる地域はどこですか？

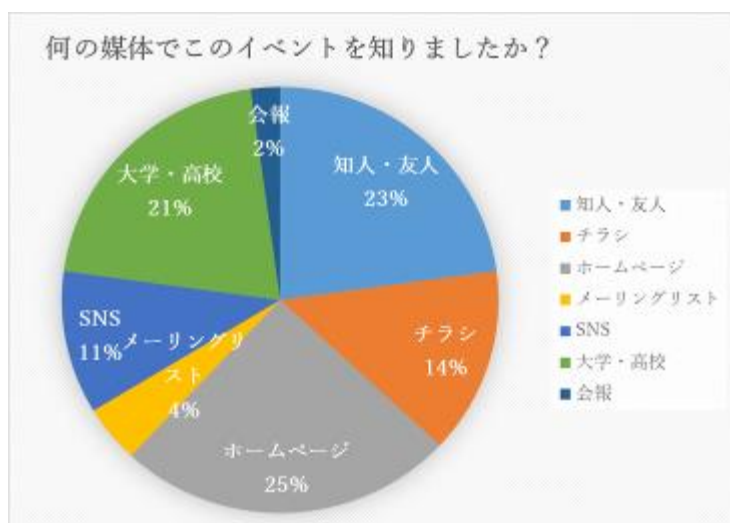


オンラインということもあり、近畿、九州など遠方からの参加者も目立ち、海外(カナダ)からの参加もあったが、名古屋市と愛知県を合わせると 57%が愛知県内、岐阜県、三重県の 3 県を合わせると 76%であった。

遠方より集まりやすいオンラインイベントにもかかわらず、中部エリアを主な対象地域としていた目標は十分に達成できたといえる。



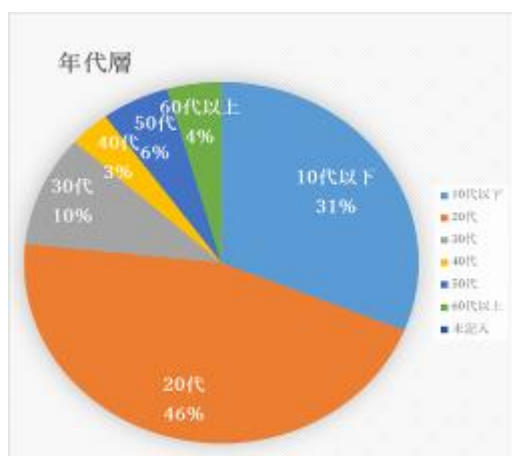
2. 何の媒体でイベントを知りましたか？



IT 社会、しかもオンラインイベントとはいえ、知人・友人が 23%、チラシが 14%、大学・高校が 21%というアナログな情報媒体が合わせて 58%と半数以上を占めていた。

ただ知人・友人や大学・高校で情報を知った第一次情報が何であったのかは解明できていないが、少なくとも「人づて」である情報の方が、信用度が高く第一歩を踏み出しやすいということも言える。

3. 年代層を教えてください。



10 代以下と 20 代を合わせるとなんと 77%にも及ぶ。

2 の広報媒体にも挙げられている通り、今回はコロナ禍の影響により、高校、大学等の教育機関における外部環境での学び・活躍の機会が激減したこともあり、安全性が担保されているオンラインイベントということも相まって、教育関係者がこれまで以上に積極的に学生への広報に関与したことが考えられる。

5、今後に向けての課題・提案や運営上の工夫

●受付について

- 先述のとおり広報は順調であり、事前申込み人数は 91 名だった。実際の参加者数は 68 名(名前が確認できた参加者のみ)と定員 70 名に対し、適切な参加者数となった。ドタキャン率は対面イベントと変わらず、オンラインイベントとしては想定の範囲内であった。ただ、大規模のオンラインイベントだったため、名簿確認(受付)は非常に困難を極め、当日 4 名がかりで、イベント終了後にもかなりの時間をかけて名簿の確認を行ったが、参加者の表示名が変更されていないケースもあり、ZOOM 上の羅列された参加者名から参加者を探し出すことは困難を極めた。
- 今後は、大規模イベントで名簿確認が必要な場合、入室時の受付番号を入れてもらうことを徹底した方がよい。
- 受付番号の代わりに、あいうえお順だとチェックしやすかったかもしれない。



●進行について

- ・ 1時間目と3時間目に参加者に表示してもらったアルファベットが切り替わっていない場合があったので、別の頭文字にするなどさらなる工夫が必要であった。
- ・ 3時間目の間に各出展団体に対し、イベント等の広報をチャットで行ってもらうように案内すればよかった。
- ・ オンラインイベントにありがただが、最後まで残ってもらうために、何らかの工夫が必要だと感じた。(ただ、通常の倍以上の長時間に及ぶオンラインイベントだったわりにそれほど参加者は減らなかった)
- ・ 参加型のイベントを再現すべく、ブレイクアウトルーム機能を使いグループワークを行ったが、参加者の希望を聞いてグループ分けをしたため、質は向上したが、運営側の作業は大変だった。(ZOOMの場合、ブレイクアウトルームはホストしか作業できないため1人に作業が集中してしまう)
- ・ 長時間に及ぶため、スタート前や休憩時間、終了時間を活用し、動きがあるよう、案内を動きと音声があるパワーポイントのプレゼンテーション機能を使い、参加者の継続参加を促すよう工夫を行った。

●事前準備について

- ・ 早い段階でオンライン一本に絞ったことにより、12月下旬というコロナ禍の真っ只中にて、参加者や出展団体、ゲストが安心して参加することができ、運営側もリスク管理にかかる時間を質の向上に費やすことができた。もし、ハイブリッド型であれば、2倍の労力がかかっていたことが考えられる。今後も感染等によるリスクが考えられる場合は今回のように早い段階でオンラインか対面かに絞った方が、質の向上に集中できる。
- ・ はじめての試みであり、当日の混乱と通信トラブル等で混乱しないよう、参加者に送る事前情報(メール)の内容の確認と精査にかなり時間をかけた。事前にJICAより共有して頂いた参加者メールのテンプレートが大変参考になった。
- ・ オンライン仕様にするためのスケジュールの組み換えには非常に頭を悩ませた。(参加者のオンラインでの集中力や負担を考えつつ、イベントの目的を達成するためのプログラムづくり)
- ・ たった1日のイベントのように見られてしまいがちだが、初めてのオンラインイベントということもあり、幾度もリハーサルを行い、前例や情報が少ないため、ズームの大規模イベントの操作確認や工夫等に想像以上の時間がかかり、資料作成にも対面イベント以上に気を使った。「準備8割、本番2割」というように、事前事後の参加者および出展団体のフォローアップも含め、報告書では表しきれない何か月にも及ぶ作業や多くの人たちの協力や時間の投入が、本事業の成果の礎となっていることを記しておきたい。

●全体を通じて

- ・ 今回は、JICA担当者との綿密に相談しながら進めていくことができ、契約上では主催者と受託事務局という形ではあるが、本イベントの創設当初のように、同じ目標に向かって、ともに持てる知恵と力を合わせる「協働」事業であることを実感することができた。

以上